

資料室だより 171

＋アシジの聖フランシスコ・聖クララ著作集

訳・監修：フランシスコ会日本管区

上記の書籍を本科生寄付金からの記念として購入させていただきました。本年はフランシスコ帰天 800 年の記念の年でもありますしこの家の創立者でもあるゲレオン師がフランシスコ会士でありました。そしてまたフランシスコはカトリックの聖人というだけではなくキリスト教音楽史上に大きな影響を与えてきた事実からして私たち音楽関係者が看過してはならないからです。

フランシスコは神学なき聖者です。「無知で無学な者」「取るに足らない僕」「貧しい者」と名乗っていましたが彼の書き物は原典批判校訂研究の対象になっている書き物が 30 以上存在します。論文ではなく祈り、賛美、典礼（聖務日課）、会則、手紙、遺言といった内容ですが、これらはキリスト教霊性史上絶大な影響を持ち続けています。またこれらの書き物への註解や研究の発展も学問に大きく貢献しています。この翻訳と註解がフランシスコ会を中心に外部の研究者も若干交えつつ学際的に広い視野でなされたことは意義深いことです。

さらに聖クララの著作がここで全て読めることも貴重なことです。クララはフランシスコの忠実な弟子というより両者は分かちがたい一体です。クララの書き物は手紙、会則、遺言、祝福からなります。クララは自らの手で独自会則を書いた最初の女性です。女性が自発的に何かを行うことが困難な時代であり独自会則が禁じられていた（ベネディクト会則を受け入れるように説得されていた）13 世紀に、命がけで勝ち取ったのが「清貧の特権」というクララ会の生き方の規範です。「わたしどもが始めた、いとも聖なる貧しさ」とクララは言います。クララの文体といい語彙、またそこに貫かれた思想は明らかにフランシスコと一体です。その激しさ、ラジカルさにおいても両者は一致しています。

時代の制約のなかにありながらそれを超越して輝くクララは「女性史」の観点からも特筆すべき女性です。そしてフランシスコは、「現代の生態系破壊の危機から人類を救えるのは宗教の側、とりわけフランシスコの「太陽の賛歌」の精神に立ち返るしか方法はない」と無神論の科学者から指摘されています。混迷を続ける現代世界の中に生きる私たちに、この稀有な二人の中世人は大きな指標となり、道を照らす灯となっております。

杉本ゆり 記